人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例

１．基本情報

○都道府県名及び市町村名

秋田県能代市

○学校名

能代市立鶴形小学校

○学校のＵＲＬ

http://www.shirakami.or.jp/~turusho1/

２．学校紹介

○学級数

【通常の学級】　１年なし、２年・３年の複式学級、４年、５年、６年は各１学級
【合計】４学級

○児童生徒数

【全児童数】２９人（平成２５年１１月１３日現在）
（内訳：２年４人、３年７人、４年６人、５年９人、６年３人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】
「ふるさとと共に生きる　心豊かで　たくましい子どもの育成」
【人権教育に関する目標】
「他者の痛みを共有できる豊かな人間性を醸成する人権教育の推進」

○人権教育にかかる取組の全体概要

【取組の重点】
○　教育活動全体を通じて実践する人権教育の充実を目指した教育課程の見直し
　人権教育の目標と、各教科や道徳等の目標やねらいを関連付け、人権に関する知的側面、価値的・態度的側面、技能的側面の資質や能力を育てる人権教育の展開
○　自分の大切さとともに他の大切さを認める好ましい人間関係をつくる実践
　様々な体験活動を通して、自主的に判断、行動するとともに、互いに認め合い、高め合うぬくもりのある学級づくり
○　家庭・地域・関係諸機関との連携を強めた体験学習の充実
・地域人材の積極的な活用や児童と地域住民等との交流による体験活動の推進
・外部人材派遣事業等の活用による専門家から直接学ぶ機会の設定
・市の人権擁護委員による人権教室の実施

３．特色ある実践事例の内容

【地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例】

（１）取組のねらい、目的

児童や教員がＰＴＡや地域住民との相互連携を通して、地域の学校に対する思いや願いに触れ、期待されることのうれしさを実感し、共に地域を元気にしていこうとする気持ちをもち、計画を立てて実際に行動することができる。

地域の一員として地域の活動に参画し、貢献することにより、自分の大切さとともに他の大切さを認めようとする態度を育てる。

（２）取組を始めたきっかけ

本校は，昨年度「地域に信頼される学校」を「目指す学校像」に掲げ、地域社会の元気の源となる学校を目指して人権教育に取り組んできた。平成８年から地域の環境美化活動として地元老人クラブとともに継続している鶴形駅の清掃、ふるさと学習・理科学習の一つとして取り組んでいるモリアオガエルの研究と環境保全活動、平成15年からは、児童会活動としてのリサイクル活動などを通して、児童相互の関わりや地域住民との協働はますます充実している。

そこで、本年度は学校教育目標を「ふるさとと共に生きる　心豊かで　たくましい子どもの育成」と改め、地域との関わりを通して行ってきた活動を見直し、地域に恩返しするという視点で再構築し、地域に繰り出して行う清掃活動を主とする「鶴の恩返し隊」を全校児童及び職員で結成した。また、本校を会場に行われる「鶴形そば祭り」に全校児童が計画段階から参画し、一人一役で運営に携わる体験学習「鶴形そば祭り体験学習」の展開を試みた。

（３）取組の内容

○「鶴の恩返し隊」活動

・平成25年４月、児童の生活の舞台であるふるさとが、自然や人材に恵まれていることに気付かせるとともに、体験的・総合的な学びの機会を充実させることを通して、児童のふるさとの自然や文化を守ろうとする態度や奉仕の心などを育てるために、地域に出向いて奉仕活動を行う「鶴の恩返し隊」を結成した。

・全校児童29名が「マイお掃除グッズ」（ほうき、ちりとり、デレキ、ゴミ袋、軍手、ゴム手袋、カッパ、バンダナ）を背負って全学区域に繰り出した。

・これまでも行われてきた校舎に隣接する鶴形駅清掃は異学年交流をねらいとする縦割り班活動で実施した。地域に感謝する心を行動で表現しようとする子供たちの姿を見て、地域の老人クラブの方々が毎回感謝の言葉をかけてくれている。子供たちはその方々のはつらつとした笑顔を見て、喜んでいる。ふるさとの駅舎を清掃するという共通の目標をもった活動により、心の交流がより深いものになっていった。そこでは、地域の歴史や昔の生活についての話題で子どもたちと高齢者との会話が弾んでいる。子供たちは高齢者から聞かされる昔の地域の姿に驚かされ、地域を支えてきた高齢者に対する尊敬の念を抱いていることを、児童の感想文等からうかがい知ることができた。

○「鶴形そば祭り」への参画

・本地域では、特産品であるそばを生かしてまちづくりを進めようと「鶴形まちづくり協議会」が中心となり、平成15年から本校を会場に「鶴形そば祭り」を行っている。今年度は、10回目となる節目の年である。これを機に、そば祭りを児童のキャリア教育の場とし、全校児童が計画段階から参画したいことを、地域住民の代表で組織される「そば祭り実行委員会」に提案し、快く認めていただいた。

・第１回実行委員会では、会の組織やイベントの内容（概要）が決定された。第２回実行委員会では、各学年の児童が行う活動と人数が決定された。

２年生　「郵便局コーナー」

３年生　「菜種油搾油体験・販売コーナー」

４年生　「産地直売コーナー」

５年生　「そば食堂」

６年生「鶴の恩返し隊ショップ」

そばの実入りの「ソバットハット」

・６年生の取組の例（主に、「総合的な学習の時間」で実施）

７月　　本校の栽培活動の一つで全校でそばを栽培することから、そのそばの実を使ったスイーツやグッズを開発することで、地域に恩返しすることを決定。作り方を研究した。

９月　　まちづくり協議会の役員から「鶴形そば祭り」を始めたころの様子や込めた思いを聞き、そば祭りを自分たちの企画で盛り上げようとする気

持ちを強くした。婦人会と協働し試作品づくりに取り組んだ。

11月　そば祭り会場に「鶴の恩返し隊ショップ」を開店し、そばサブレ（試食)、手作りのアクセサリー「ソバットハット」の販売を行い完売した。

12月　これまでお世話になった地域住民を招待し、手打ちそばを中心メニューとする「鶴形小恩返し定食」を作って会食する予定である。また、活動を振り返ってまとめ、改善点を明らかにして次年度につなげることとしている。（予定）

（４）取組の主体や実施体制

○　地域防災協議会

本校では、地域と関係諸機関の積極的な連携を推進する組織として、平成24年度に発足した地域防災協議会が、学校運営協議会的役割を担っている。委員の構成は12名で、地区連合自治会長、地区老人クラブ会長、婦人会長などである。

平成25年２月27日　鶴形地域防災協議会設立会

平成25年５月９日　第１回地域防災協議会

平成26年１月　第２回地域防災協議会（予定）

（５）取組の頻度

○　鶴の恩返し隊

４月に地域住民立会いの下、発足式を行った。定期活動は年５回実施。

○　鶴形そば祭り

各学年で生活科や総合的な学習の時間に「そば祭り体験学習活動」として単元計画を立てて取り組んだ。そば、米、サツマイモ等の栽培活動との関連を図った学習活動を展開した。

（６）取組を実現するに当たって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫

地域や関係諸機関との連携を図り、より効果的な取組にするために「ハロー鶴小ウィーク」の名称で、授業参観等の学校開放を集中的に行った（年２回)。第１回は運動会、地域住民との合同避難訓練、地域給食試食会、三味線芸術鑑賞教室、地域の手芸家個展を実施した。第２回は学習発表会、日赤奉仕団炊き出し訓練、救急救命法講習会、緊急地震速報対応訓練、バルーンアートワークショップ、薬物乱用防止キャラバン等を実施した。

少人数のメリットを生かすために学年別及び全校一斉等の組合せのバリエーションを工夫し、特に事前の準備活動や事後の振り返り活動を充実させて、活動を意義深いものにするようにした。

各教科学習の時間確保のために、指導内容の精選及び教育課程の工夫を行った。また、そのための教材研究を深めた。

学校・家庭・地域の連携のために校報を月２回発行し、全戸に配布した。様々な取組への参加・協力を依頼する案内文書も、必要に応じて学区内の全戸に配布した。さらに、ホームページで活動の様子を紹介した。

４．実践事例の実績、実施による効果

（１）取組の実績

鶴形そば祭り、学習発表会、運動会、ＰＴＡ授業参観、芸術鑑賞教室、米作り体験学習、そば栽培体験学習などのほか、関係機関による出前授業、日常的な学習活動へのゲストティーチャーなど多数の方々（延べ1500人余）にお世話になった。

受賞歴　平成25年９月７日　秋田県環境大賞（環境教育・学習部門）受賞
　　平成25年10月24日　秋田県福祉奉仕者・団体功労秋田県知事表彰受賞

（２）取組が効果を上げた実際の事例

鶴の恩返し隊による学区全域の清掃後、子供たちは「地域を美しくしたい」との思いが強まり、「意識啓発看板を街に設置したらどうか」と自治会等へ提案した。まちづくり協議会による環境美化啓発看板の設置事業へと発展した。これは、本校の取組が地域住民の意識啓発につながった事例の一つである。

（３）取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項

「鶴形そば祭り」におけるキャリア教育の視点を生かした体験学習活動では、午前中に各コーナーで子供たちが地域住民と一緒に活動し、参加者との心の交流を深めることができた。その思いが、午後に行った学習発表（ふるさとへの思いを込めた群読と合唱の表現）に形となって表れた。会場全体の大きな感動を呼び、子供たちが歌い終わらないうちから割れるような拍手に包まれた。自分たちの活動がそば祭りの成功に大きく役立ったことが実感できた瞬間であった。

５．実践事例についての評価

（１）取組についての評価、及びそう評価する理由

ＲＰＤＣＡ（事前調査、計画、実践、評価、改善）のサイクルを生かした取組により人権教育のねらいに迫ることができたと捉えている。今年度の実践に関わって本校を来訪した地域住民や関係諸団体の人数が、11月13日現在で延べ1540人を超え、児童１人当たりに50人余が関わったことに相当する。地域住民や関係諸団体が本校の取組の趣旨を十分理解し、強力に支援してくださった結果と考えられる。

11月に実施した人権擁護委員による人権教室では、委員の方々から子供たちの温かな思いやりが感じられる言葉遣いや、自信をもって自分の考えを述べる姿に感動したという評価を頂いた。

児童アンケートの結果、今年度の地域住民との触れ合いを通した学習活動では「地域住民に尊敬の念をもった」「地域の一員としてがんばることができた、という実感をもった」という児童が100％であった。

（２）保護者や地域住民からの反応

保護者や地域住民からは、「学校の敷居が低くなった」「学校が身近に感じられる」「学校でも地域でも活躍する子供たちの顔が見られてうれしい」「子供たちの、地域を大切にしようとする気持ちが強く感じられた」などの感想や感謝の声が寄せられている。また、体験活動を通じて、児童は地域住民から温かい励ましの言葉や的確で親切な助言を頂いている。

（３）現在、実施に当たって課題と感じていること

・体験的な活動の、より効果的な実践に向けた計画立案
・人権教育上、価値の高い活動の継続とマンネリ化を防ぐための工夫
・「人権の花」事業を生かした人権教育の推進（平成26年度実施予定）

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

秋田県・能代市立鶴形小学校
様々な活動形態を容易に設定できるという小規模校のメリットを生かし、地域や関係諸機関との連携・協力を積極的に行い、地域社会の元気の源となる学校を目指して人権教育を推進している。 全校児童が「マイお掃除グッズ」を背負い、地域に出向いて清掃活動を行う「鶴の恩返し隊」や一人一役で計画・運営に携わる「鶴形そば祭り体験学習」は特色ある取組である。清掃活動後、地域を更に美しくしたいと児童が自治会に看板設置を提案し、看板設置事業へと発展したことは、学校の取組が地域住民への意識啓発につながっていて注目される。全校児童２９名に対して１５４０人を超える方が学校を訪れて、児童に励ましの言葉や的確で親切な助言をしている。積極的な連携・協力の積み重ねにより、児童には温かな思いやりが感じられる言葉遣いや自信をもって自分の考えを述べる姿が見られるようになってきている。